

＊春は別れと成長の季節＊



▲別れの歌を唄う只見保育所の子ども達

3月25日、町内の3保育所では満了式が行われました。今では普通にできる走ったり、遊んだりする事も保育所に入ったばかりの頃はできませんでした。保育所で過ごしたわずか数年間で子ども達は大きく成長しました。これからも子ども達はさらに成長していきます。



3月23日は町内3小学校の卒業式が行われました。朝日小学校は今年度12名が卒業し、4月からは中学生になります。卒業証書授与後、一人ひとりが将来の夢を皆さんの前で発表してくれましたが、その夢を叶えるため中学校でも頑張ってくれる事でしょう！



▲校長先生から卒業証書をしっかりと受け取りました



▲別れのことばでは、楽しかった6年間の思い出を話してくれました



▲卒業生を代表し答辞を述べる吉津勇平君



3月11日の只見中学校の卒業式。将来を考え様々な高校へ進学する卒業生は友達と離れ離れになってしまいますが、只見中学校で充実した時間を過ごしたように、高校でも忙しくも楽しい毎日を送って欲しいと思います。



▲最後の式歌では多くの生徒が涙をこぼしました

ブナセンター講座 「葉と花の戦略と絶滅危惧種の保全」3月13日(日)

鷺谷いづみ氏(中央大学・教授)を講師にお招きし、植物が生き残り、子孫を残すために行っている方法(戦略)と植物の保全についてお話していただきました。植物は動けないこと、目や手足の数が決まっている動物とは違って成長に伴って葉や枝を増やすこと、同じ遺伝子を持つクローン個体ができることが動物と異なります。植物は動けない点を補うために、葉や枝の配置を柔軟に変え、昼頃に光合成速度を低下させる「葉の昼寝」をすることで強い光から葉を守り、寒い冬は葉を落として安全な場所に栄養分を貯蔵し、花や実の形態で虫や鳥を引き寄せるといった戦略を用いているそうです。

また、鷺谷氏が長年研究されてきたサクラソウを中心に、植物を保全する際に必要となる考え方について、適度な攪乱(人為的な間伐や採取)、花粉や種子を運ぶ動物の存在、遺伝的多様性の重要性

などもお話していただきました。

鷺谷氏には、参加者からの質問にも丁寧に答えていただき、講座に参加した約40名の参加者からは、「わかりやすかった」「面白かった」「野菜を育てる参考になった」という満足の声が聞かれました。



▲たくさんの方に参加いただきました

ブナセンター自然観察会 「冬の鳥を見よう」3月12日(土)

今回は町内の方を中心とした参加者で、只見町で冬を越す鳥たちを探しに行きました。

はじめに、只見ダムでカモ類の観察を行い、遠くのカモ類は望遠鏡を使って模様や色をじっくりと観察しました。つぎに、青少年旅行村のコナラ林の雪上をかんじきやスノーシューで歩きながら森の鳥を探しました。

ここでは、キツキ類のコゲラやアカゲラが幹を突きながらゆっくりと木を登っていく様子が観察できました。この日は雪が湿って重く雪上を歩くのは大変でしたが、雪の下から這い出てきたユキツバキや地面から顔を出したフキノトウを見ることもでき、残り少ない冬と野鳥を楽しむことができました。



▲只見ダムでカモ類を観察する参加者



▲雪上を歩きながら森の鳥を探しました